

社長の経営哲学の構築にお役立ちする

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

自らを光とし、自らを拠り所とする 松原 泰道 (龍源寺前住職)

1. どんなに回り道しても決して無駄にはならない。ただし、腰掛けでは駄目ですね。その時その場で本気で真剣にベストを尽くす。そういうふう生きていけば、回り道は回り道ではなくなる。その中から成長の糧を拾い上げていくことができる。
2. 苦の人生からプラスへ転換するポイントは、依頼心を捨てることでしょう。鈴木大拙先生も言っています。「自らを光とし、自らを拠り所」として、ほかに求めてはいけない、と。そこを目指して歩いていくことです。
3. 釈尊の教えは、厳肅、敬虔、邂逅の三つに帰すると言えます。いまはいましかないという稀有、ありがたさ。このいまを大切に生きる。これが厳肅です。敬虔は、自分一人では生きられない、自分一人の力で生きているのではない、多くのご縁による邂逅のおかげ、ということです。邂逅は、出会い、巡り合わせです。自分が本当の自分に出会うことで、これを挨拶の言葉で言うと、「ありがとう」「すみません」「はい」になりなす。

(参考:「致知」2007年1月号)

経営者のための社会学

若者へ フリーターの弊害を教える

1. 総務省の「労働力調査」によると、2006年1月～3月期の役員を除く雇用者5002万人のうち、非正社員は1663万人となっている。1995年2月調査時点では1001万人(20.9%)だったが、2006年は雇用者全体の33.2%で、1990年代半ばから現在にかけて、フリーターなどの非正社員は、増加の一途をたどっている。どんな雇用形態を選ぶかは本人の自由である。しかし、それによって将来どんな影響を受けるのかを知らない若者は多い。現実を子供たちに示すことはとっても大切なことである。
2. フリーターと正社員では、生涯賃金に大きな格差がある。厚生労働省「2005年賃金構造基本統計調査」「2003年就労条件総合調査」の統計データから推計したところ、次の結果が分かった。高卒の男性が18歳から59歳まで「管理・事務・技術職」として働いた場合、正社員の生涯賃金(退職金含む)は約2億915万円。一方、フリーターなど非正社員の場合は1億1119万円。1億円近い差が生じている。(参考:「日経ビジネス」2006年10月23日号)

経営者のための危機管理

自社の製品は買わないが約4割

1. 自社の製品やサービスを「買わない」と答えた中堅・中小企業の社員は約4割いることがわかった。買わない理由は大きく3つに分類できる。1つは、製品やサービスそのものを劣悪だと感じること。「ぼったくり」「不良品を多く出していることを知っている」などがその例だ。製品やサービスそのものよりも、それを生み出す同僚社員の「姿勢」に幻滅した理由も多い。「会社全体のプロ意識が低い」「営業の専門知識が劣っている」などがこれにあたる。経営陣への不満を挙げる声もあつた。「事業を始めた当初の意識や誇りをトップが捨ててしまった」などの声が出た。
2. こうした「買わない理由」には共通項がある。「製品やサービス」「同僚社員」「経営陣」と矛先は違うが、どれも「内部事情を知っているために生じた不信感」が背景にある。お客に製品やサービスを売り込むのは社員だ。その社員が製品やサービス、経営者、仲間に不信感を抱いていけば、客を説得することはできない。

(参考:「日経ベンチャー」2006年12月号)

古典に学ぶ

私心を捨てる

「事を処するに理ありと雖も、而も一点の己を便するもの、揆みて其の内に在れば、則ち理に於て則ち一点の障碍を做して理も亦のびず」

(訳) 事を処する場合、自分のほうに道理があっても、そこに私心があれば、道理にも障碍となって道理も通じなくなる。

(参考:佐藤一斎「言志四録」:PHP文庫)